

グループホーム名（複数ユニットの場合はユニット名も）をご記入下さい

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
			実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個々の尊厳を守る」、「家庭的な雰囲気の中での生活支援」、「地域とのふれあいと心豊かな生活」という理念を掲げ、事業所内にも掲示、日々のミーティング等においても周知徹底、実践に努めている。	職員は理念のとおり、すべての利用者が自分らしく安心して生活できるよう支援し、利用者と地域が結びついた生活環境を大切にし、地域の方々の心の拠り所となる事業所を目指して、日々のケアを行っている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人代表者が自治会長を務めており日頃から地域との関わりが強い。敬老会やその他の地域行事にも参加して地域交流に努めている。	周囲の理解や協力の中、利用者は日常的に地域との関わりを持つことができていたが、コロナ禍でイベントが行われていない。職員は、地域との交流が途切れないよう、情報共有に努めている。地域に開かれた事業所になるよう、地域とのつながりを大切にしている事業所である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協働で行った地元住民を対象とした認知症ケア勉強会に職員が参加して事例検討を行い、認知症の理解や支援について地域の方々に向けて活かしている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に日々の活動報告と各委員との意見交換を行っている。身体拘束適正化委員会を同時開催することもあり、事例検討や身体拘束についての勉強会もしている。会議内で出された提案や改善点をサービス向上につなげている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員や地域の代表者、利用者家族も参加しており、ホームの状況を把握のうえ、意見をもらっている。議事録も適切に整備されている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターと連携を密にしている。	地域包括支援センターを通じた運営推進会議での連携だけでなく、権利擁護や市長申し立てなどを通じて連携し、良い関係性を築けている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	昨年度、2回内部での研修会を行う。今年度は外部研修を含め内部でも定期的に研修会を開催する予定である。職員によって身体拘束にあたる具体的な行為については理解度に差はあるが事業所全体で身体拘束ゼロに向けた取り組みを行っている。	身体拘束ゼロを継続している。施設内でも勉強会を実施し、身体拘束や虐待に対する理解を深めるよう努めている。身体拘束検討委員会は3ヶ月に1度適正に開かれており、2回に1度は運営推進会議と併せて開催し、包括の意見を柔軟に取り入れている。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修機会を増やしていく必要もあり、虐待の性質、内容といった認識が職員によって差がみられる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者については講演会や研修で学ぶ機会があったが職員にまで周知や学びの機会はなかった。今後の課題である。	

身体拘束検討委員会の議事録は適正に記録されているが、運営推進会議の議事録とは分けて整備することが望ましい。

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に時間をとって説明をおこなっている。その都度、不明な点や疑問点には応えており一定の理解と納得は得ていると思う。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり適時、ご家族へは意見交換の場をもちニーズの把握に努めている。運営推進会議にてもご家族代表として参加して頂き、積極的に意見を求めている。</p>	<p>コロナ禍においてもメールやLINE通話など利用者家族に合わせて対応し、利用者家族が意見を言いやすい環境づくりに努めている。利用者と家族が距離感を活用しながら良好な家族関係を保てられるよう、心配りを行っている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個々の職員とのコミュニケーションを図り、意見や提案についても広く職員に意見を求めて、改善策につなげている。</p>	<p>職員の負担軽減のためにタブレットを導入し、ケアの記録だけでなく、申し送りや提案事項など、職員間の連携や意見交換に役立てている。日頃から、職員同士で意見を言い合える環境を構築している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>過重労働やストレスの緩和に努めて、職員のモチベーション維持向上に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修機会を設けているが、業務優先になりがちで、機会を増やす必要は感じている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市の事業者連絡会にも参加して交流に努めている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、ご家族からの聞き取りを行い安全、安心を第一に、ホームに慣れて本人らしく生活出来るように支援している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや要望には最大限応えられるように努め、その都度、相談については助言を行っている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他サービスも必要とあれば連絡調整を行い、あらゆることを見極めながら優先的な支援に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活という場を認識すると共に、入所者に寄り添い協力的な感じで関係を築いている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの家族の関係の維持、継続に努めて、必要に応じて協力をもとめていき、家族とのつながりを大切にして支援を行っている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご近所さんが気軽に面会できるように支援に努めている。	家族も大半が近所に住んでおり、利用者は住み慣れた環境そのままに安心して過ごせる。フェースシートだけでなく、普段のケアの中で知り得た利用者の好みや趣味などをケアに取り入れるよう努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲よし同士や関係性を理解してストレスの少ないように支援を行っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられてからもご家族のなかにはホームを訪ねて来られたり、お手紙や年賀状にて関係性の維持に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や現状の把握に努めて、本人の意向に近づけていけるように努めている。	普段のケアの中や毎月のイベントを通じて知ったことや気づいたことをすぐに今後の支援に反映させ、職員間で共有し、利用者の想いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や嗜好、ホームに入所に至る経緯を検討して支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活サイクルを尊重しながらストレスがかからない生活支援に努めている。また適時モニタリングを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族を含めた担当者会議を開催して、問題点や改善案等を精査して、これらを反映させた介護計画の作成に努めている。	介護スタッフが利用者や家族から知り得た情報は、計画作成担当者とも情報共有を図り、ケアプランに反映させるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、ケース記録及び申し送り等で情報を共有して、適時介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に柔軟に対応して、安心、安全で心豊かに生活してもらえるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会と地域とのつながりを大切にして、孤立することなく地域のなかで安心して暮らしてもらえるように支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の意向を踏まえて、適切な医療を受けていただくように支援を行っている。	協力医療機関と密接に連携をとり、定期的な主治医の往診があるため、利用者や家族だけでなく職員の安心も得られている。主治医の専門外の医療機関へは家族の同意のもと、職員が通院同行している。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日々の体調の変化や状態の把握に努めて看護師とも情報共有を行っている。必要に応じて、受診や医師との連絡調整を行い支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護や看護の情報交換、治療方針の確認等を行い、早期退院に向けた支援や退院後のフォローなどの連携をはかっている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を定めて本人やご家族にも説明同意を得ている。職員には方針を周知させて終末期に向けた取り組みを行っている。	重度化した場合の対応や終末期の看取りについて、利用者や家族の希望に基づいたケアが実践できている。最近では末期がんの利用者への緩和ケアにも対応し、主治医や訪問看護師とも連携が取れ、より幅広い対応を心掛けている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡手順についてはマニュアル化しているが、いざ起こった時の応急手当や救命救急の実践力が不十分である。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災、避難計画の策定、避難経路も確認して、訓練にも活かしている。地域との協力体制も維持できている。	年2回、火災を想定した訓練を行っている。 地域との連携もできている。	日中と夜間を想定した訓練を交互に実践し、それぞれの人員体制や環境に応じた対応に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	価値観、人生観に寄り添い思いやりのある言葉かけに努めている。	利用者との言葉遣いにおいて、親しみやすさと馴れ馴れしさとの違いを理解し、場面ごとの対応のメリハリをつけることを職員全員が常に意識するよう指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や主体性を優先して本人の意向に近づけるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを優先しながら安全で事故がないように見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや服選びについても一緒に行い、納得したなかで支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や配膳等を職員と一緒にやっている。	手作りの家庭的な食事を提供し、利用者と一緒に支度過程から楽しんでもらえる工夫をしている。誕生日等特別な日には、利用者の希望に沿った食事を用意するなど、利用者の楽しみの1つである食事を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	摂取量の記録を行い、足りないときは時間を空けたり、他の物で栄養補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアを含めて、週一回の訪問歯科診療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄に努めて、排泄時間を記録して、適時トイレへの声掛けを行い、排泄介助を行っている。	利用者ごとに時間管理を行い、夜中でも順番にトイレに誘導し、できる限り自立を促せるよう、細やかな支援を行っている。	骨盤周りの筋力を鍛える体操をレクの中で実施することにより、今できている能力を維持できるのではないかと。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録から排泄パターンの把握に努めて、水分補給や便秘体操、内服薬なども用いてコントロールを行っている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>原則2回、夏季は3回実施しているが希望があれば適時入浴機会を作っている。安全に事故のないように見守りながら入浴支援を行っている。</p>	<p>本人の拒否があれば無理強いないで、翌日に振り替えるなどの対応を行いながら、週2回以上の入浴を確保している。</p> <p>入りたい時間帯や回数などの要望があれば、できる限り対応している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々に応じての休息、安眠への支援を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の管理は行き、誤薬、誤配がないように注意を払い安全な服薬に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>残存能力を活かして、個々の主体性を大切に支援を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望に応じて外出機会の確保に努めている。家族等の協力もあり少し足を延ばして散歩したり外食に行ったり、本人が満足してもらえ支援を行っている。</p>	<p>通常は、気候を見ながら近所を散歩したり、コンビニへ買い物同行するなど、リハビリを兼ねた外出支援に努めている。</p>	<p>コロナ禍で外出頻度は減ってしまっているが、玄関先での外気浴を定期的に行うなど、季節を感じられるケアに期待したい。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や力に応じて支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望があれば対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な環境や雰囲気作りを第一考えて、快適な空間を維持するための清潔、室温管理、消臭にも気を配っている。リビング近くにキッチンがあり、料理のしている音や匂いを感じてもらえる。</p>	<p>共有スペースや廊下には、季節を感じられる装飾をし、家庭的で快適な空間づくりに配慮している。</p> <p>コロナ禍では大きな空気清浄機を購入するなど、清潔で利用者の健康管理にも徹底している。</p>	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限りはあるが落ち着ける場所の確保はしている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具や使い慣れた物を使用してもらい、安全で安心してもらえるように工夫はしている。</p>	<p>利用者や家族の希望に合わせて、自宅で使用していた馴染みの物等を持ち込んでもらい、家庭的な第2の住まいとして意識いただけるように支援している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各個室には暖簾で違いをつけたり、個々の自立した生活が送れるように工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)</p>	○	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)</p>	○	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない</p>